

ICOM

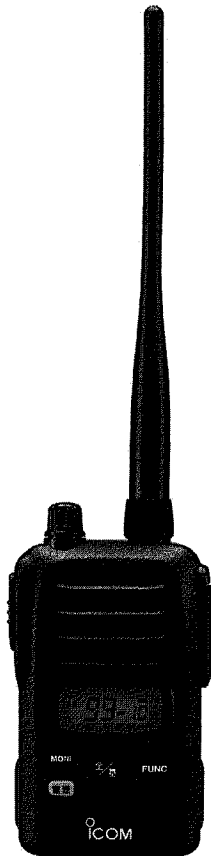
取扱説明書

簡易業務用無線電話装置

IC-UH401

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあと大切に保管してください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明で認定された簡易業務用無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

標準構成

〈充電器(P31～P34)は、別売品です。〉

本製品には、下記のものと同梱しています。

- 無線機本体 1
- ハンドストラップ 1
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom, Inc.、icom、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。



使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

はじめに

本製品の概要について

- 本機は、携帯用簡易無線局(小エリア無線通信システム)用に設計されたプレストーク方式の無線電話装置です。
 - 本機は、JIS保護等級7(防浸形)*の防水性能に対応できるように設計されています。(バッテリーバック装着時に限る)
 - 本機は、通話チャンネルの空きを自動検索して、交信できるMCA(マルチチャンネルアクセス)方式を採用しています。
 - 別売品のリチウムイオン電池を装着することにより、軽量で長時間の運用が可能です。
 - 本機は、送信出力を2段階に切り替え可能です。
 - 他局の不要な通話をカットする連続トーンスケルチ、連続デジタルコードスケルチ装置を標準装備しています。
 - 夜間や暗がりの中での操作を容易にするオートランプ機能を装備しています。
 - 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。
- *JIS保護等級7(防浸形)とは、バッテリーバックを正しく装着した状態で水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

電波法上のご注意

- 本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていたために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。ご自分で分解や改造をしないでください。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

株式会社エクスリ 東京都中央区日本橋浜町2-30-1 IKビル6階 / 大阪府大阪市淀川区西中島6-3-32
お問い合わせ総合ダイヤル 0120-880-200

はじめに

防水性能について

バッテリーバック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172)は、本製品に装着することでJIS保護等級7(防浸形)の防水性能がありますが、完全防水構造ではありません。

次のような使いかたをすると、防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分間以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーバックや防水形スピーカーマイクを付けたとき
- 海水や砂、泥などが無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、歪み、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- バッテリーバックを無線機本体に取り付けずに使用したり、下記に指定の別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーバック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- 使用温度範囲からはずれた温度で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散、または薬品にふれるところに放置したとき

別売品の防水性能について

バッテリーバック(BP-220L/BP-220N/BP-233/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172)を無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)の防水性能になります。※接話タイピン型マイクロホン(HM-163)は、JIS保護等級7(防浸形)保証の性能がありますが、マイクロホン部は、防水構造ではありません。※上記以外の別売品(※7章)については、防水性能を保証していませんので、ご注意ください。

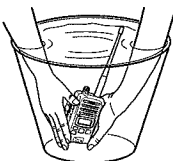
取り扱い上のご注意

- アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
● 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
● 雨の中や、水滴が付着、または濡れた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしないでください。
● 水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
● 無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、ときどきお手入れしてください。
● 磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
● バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。
● 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめ

海水や砂、泥などが付着したときは？

海水や砂、泥などが無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。このとき、バッテリーパックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。



iv

v

この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、設定されている機能について詳しくは、販売店にお尋ねください。

1.安全上のご注意(必ずお読みください。) 11

2.ご使用前の準備 11

- ハンドストラップの取り付け(付属品) 11
■ ベルトクリップの取り付け(別売品: MB-98の場合) 11
■ バッテリーパックの取り付け(別売品) 12

3.各部の名称と機能 13

- 前面部 13
■ 表示部 15

4.交信のしかた 16

- 1 電源を入れる 16
2 音量を調整する 16
3 相手局の選びかた 17
(1)通話チャンネル番号を選ぶ 17
■ MCA通話が設定されている場合 17
■ MCA通話が設定されていない場合 17
(2)個別(相手局)番号を選ぶ 18
■ 全体/基地/個別表示への切り替えかた 18
■ 個別/グループ呼び出しの選びかた 19
4 呼び出しをする 20
■ 全体(AL)または基地局を呼び出すとき 20
■ 個別呼び出しをするとき 20

4.交信のしかた(つづき)

- 5 呼び出しを受ける 21
■ 個別呼び出し機能が設定されていない無線機 21
■ 個別呼び出し機能が設定されている無線機 21
6 交信する 22
■ 正しい通話方法 22
■ 交信時のアドバイス 23
1.マイクロホンの使いかた 23
2.個別呼び出しについて 23
3.グループ呼び出しについて 23
4.相手局から応答がないときは 23
5.チャンネルスキャン機能について 23
6.相手局の音が聞こえにくいときは 24
7.交信する場所について 24
8.終話について(個別呼び出し機能設定時) 24
9.電波干渉について 24

つづき

5.セットモードについて 25

- [セットモード]に変更するには 25
■ 設定項目[①~⑩]について 26

6.充電について 30

- 安全な充電のために 30
■ バッテリーパックの残量表示について 30
■ バッテリーパックの残量警告音について 30
■ BC-161(卓上急速充電器):充電のしかた 31
■ BC-161の連結充電について 32
■ BC-161のヒューズ交換について 33
■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた 34
■ 正しい充電のために 35
■ バッテリーパックの名称と定格について(別売品) 36
■ 急速充電器の定格について(別売品) 36

7.別売品について 37

- 別売品一覧表 37
■ 別売品を接続するには 39
■ HM-130/HM-172*(防水形スピーカーマイク) 39
■ EM-80(スピーカーマイク) 39
■ HM-139/HM-139S(小型スピーカーマイク) 40
■ AD-52(イヤホンジャックアダプター) 40
■ SP-16(耳掛け型イヤホン) 41
■ HM-109/HM-163(接話タイプピン型マイクロホン) 41
■ MB-86(回転式ベルトクリップ) 42
■ MB-97(ベルトクリップ) 44
■ HM-147(骨伝導マイク) 45
■ OPC-636/OPC-637
(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル) 46
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と
EH-11(イヤホン型スピーカー)の組み立て 47
■ HS-88(ヘッドセット) 48

7.別売品について(つづき)

- HM-104/HM-104A
(単一指向性/無指向性タイプ型マイクロホン)48
- EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)49
- EH-13(耳掛け型イヤホン)49
- EH-14(オープンエア型イヤホン).....50
- EH-15(イヤホン)50
- MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け.....51
- MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け51
- LC-153/LC-154(ハードケースS/ハードケースL)52
- LC-164/LC-166(ハードケースS/ハードケースL)52

つづき

8.保守について 53

- 日常の保守と点検について.....53
- 防水性能維持の定期点検と保守について.....54
- 故障かな?と思ったら.....55
- 故障のときは.....57

1 安全上のご注意

**安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。**

- ▶ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ▶ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ▶ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ 無線機本体について

△危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎ 引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

安全上のご注意 1

△警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- ◎ 万一煙が出ている、変なおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認し、販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

1 安全上のご注意

■ 無線機本体について(つづき)

△注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎ アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎ 針金などの細い棒でマイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ 無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ 指定以外の別売品を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ -20℃~+60℃*以外の環境では使用しないでください。
★BP-246使用時のみ、-10℃~+60℃の環境で使用ください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ バッテリーパックについて(別売品)

△ 危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎ 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎ コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外觀上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があります、その状態で使用をつけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での充電はしないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損したりして、破裂、発熱、発火や火災、やけどの原因になります。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命の低下、破裂、発熱、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◆ バッテリーパックを使用の際に、異常と思われたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

4

■ バッテリーパックについて(つづき)

△ 危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
 - バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
 - バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
 - ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
 - バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
 - 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
 - バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
 - バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

5

△ 警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎ 使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。
使用をつけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電やけがの原因になります。
- ◎ 電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ 指定の充電時間を超過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ バッテリーパックから漏れ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎ バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。
- ◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

1

■ バッテリーパックについて(つづき)

△ 注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
 - バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量の中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
 - 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
BC-161(卓上急速充電器) : 0~40℃
BC-121NA(6連急速充電器) : 10~40℃
 - 以下の温度範囲以外の環境で使用しないでください。
BP-220L/BP-220N/BP-233 : -20~+60℃
BP-246 : -10~+60℃
 - 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
 - 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
 - 長期(約1年)間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずして、-20℃~+25℃の風通しのよい乾いた環境に保管してください。
3ヶ月間ほど使用しないときは、-20℃~+35℃の湿気の少ない場所に保管してください。
1ヶ月間ほど使用しないときは、-20℃~+40℃の湿気の少ない場所に保管してください。

■ バッテリーパックについて(つづき)

△ 注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎ 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電器について(別売品)

△ 危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- ACアダプターは、充電器(BC-161/BC-121NA)で指定された別売品以外のものを使用しないでください。
また、充電器に付属する場合は、付属のACアダプター以外のものを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックは、使用しないでください。
BP-220L、220N、BP-233、BP-246専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

1

■ 充電器について(つづき)

△ 警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161は、5台以上連結して充電しないでください。
連結して充電できるのは、最大4台までです。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源コードや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

△ 注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎ 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
BC-161(卓上急速充電器) : 0~40℃
BC-121NA(6連急速充電器) : 10~40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。

◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

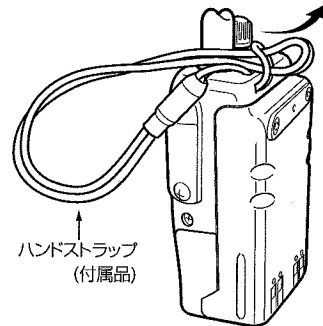
◎ 充電器を保管するときは、-10℃~+70℃で湿気の少ない場所に保管してください。
サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。

◎ 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1

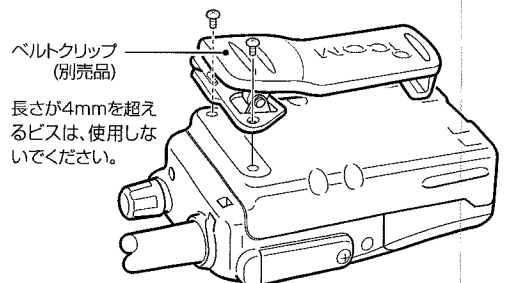
2 ご使用前の準備

■ ハンドストラップの取り付け(付属品)



↑
ハンドストラップ
(付属品)

■ ベルトクリップの取り付け(別売品：MB-98の場合)



↑
ベルトクリップ
(別売品)

長さ4mmを超えるビスは、使用しないでください。

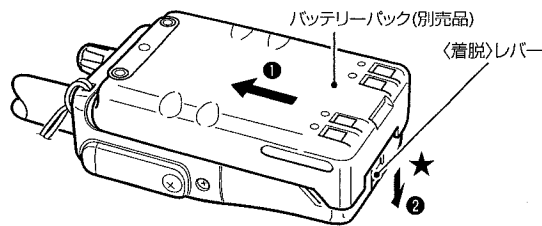
※ベルトクリップは、タイプ(※P38)によって、使用できるビスの長さが異なります。
取り付けるときは、お使いのベルトクリップに付属するビスより長いものを使用しないでください。

■ バッテリーパックの取り付け(別売品)

バッテリーパックを本体に密着させながら、「カチッ」と音がするまで①の方向にスライドさせます。

※取り付けたとき、バッテリーパックが無線機底面にある〈着脱〉レバーでロックされていることを確認します。

★取りはずすときは、〈着脱〉レバーを②の方向に押し下げるとロックがはずれます。



2

△警告

本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

※充電方法については、6章(※P31~P34)をご覧ください。

△注意

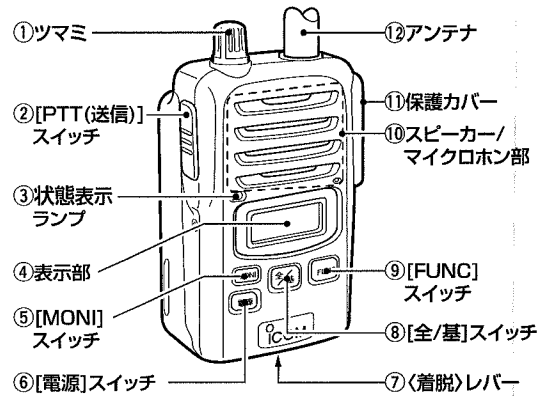
バッテリーパックを取りはずすときは、次のことを守らないと、指や爪を傷めるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、〈着脱〉レバーの操作は、バッテリーパックを①の方向に軽く押し込んで、〈着脱〉レバーが軽く動く状態になってから、②の方向に操作してください。

12

3 各部の名称と機能

■ 前面部



① ツマミ

ツマミを回すと、音量(00~32)が調整できます。

※個別呼び出し機能が設定されている場合は、[FUNC]スイッチや[全/基]スイッチを押すと、ツマミで設定する項目を切り替えます。

② [PTT(送信)]スイッチ

押しつづけると送信状態、手をはなすと受信状態になります。

③ 状態表示ランプ

送信/受信/着信の状態を示します。

- 送信時は赤色で点灯します。
- 受信時は緑色で点灯します。

電源を入れたときや各部のスイッチを操作したとき、約5秒間表示部の照明が点灯します。

13

各部の名称と機能 3

④ 表示部

運用状態を表示します。

⑤ [MONI]スイッチ

押すごとに、スケルチの[ON/OFF]を切り替えます。

※ノイズを聞きながら音量調整したり、個別呼び出し機能で受信する他局の受信、相手局の信号が弱く、途切れたりして聞こえにくいときなど、「ON」にします。
※MCA通話が設定されている場合は、「ON」にするとチャンネル検索を停止します。

⑥ [電源]スイッチ

長く押すごとに、電源の[ON/OFF]を切り替えます。

⑦ 〈着脱〉レバー

バッテリーパックを取り付けたり取りはずしたりするレバーです。

⑧ [全/基]スイッチ

押すごとに、[全体]→[基地]→[個別]の順番に呼び出す局の個別番号表示に切り替えます。
※個別呼び出し機能を設定していない場合、スイッチ操作は無効になります。

⑨ [FUNC]スイッチ

短く押すごとに、「通話チャンネル番号」→「個別(相手局)番号」→「音量レベル」の順番に表示が切り替わります。「ch」表示点灯、または「個別番号」表示が点滅しているあいだは、「ツマミ」で選択できます。

※長く押すごとに、ロック機能を「ON/OFF」できます。
★個別呼び出し機能を設定していない場合、「個別(相手局)番号」は選択できません。

⑩ スピーカー/マイクロホン部

超小型のスピーカーとマイクロホンを内蔵しています。別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するときは、機能しません。

⑪ 保護カバー

別売品(※7章)などを接続するコネクターを保護します。別売品などを接続しないときは、保護カバーを付けておきます。

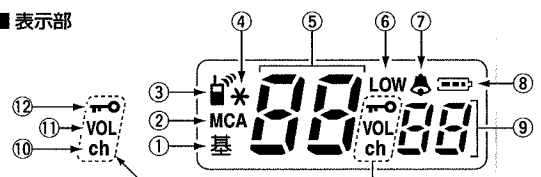
⑫ アンテナ

電波を発射、または受信する部分です。

3

3 各部の名称と機能

■ 表示部



① 基(基地表示)

基地局を呼び出す個別番号のとき表示します。

② MCA

MCA(マルチチャンネルアクセス)通話が設定されているとき表示します。

③ (個別呼び出し機能)

個別呼び出し機能が設定されているとき表示します。
※交信中は、点滅表示します。

④ *

コンパンド機能が設定されているとき表示します。

⑤ 88(大)

全体呼び出し(AL)を表示します。

※個別呼び出し機能が設定されている場合、運用する個別(相手局)番号を表示します。
※セットモード(※5章)のときは、項目番号を表示します。

⑥ LOW

[通話チャンネル]番号の送信出力が「LOW」のとき表示します。

⑦ ▲

不在時など、呼び出しを受けたとき(着信)点滅します。

⑧

電池の残量を4段階で表示します。(※P30)

⑨ 88(小)

音量レベル、[通話チャンネル]番号を表示します。

※MCA通話が設定されている場合、「-」を表示します。
※セットモード(※5章)のときは、選択した設定項目の設定値を表示します。

⑩ ch

[通話チャンネル]番号を「⑨」に表示するとき点灯します。

⑪ VOL

音量レベルを「⑨」に表示しているとき点灯します。

⑫

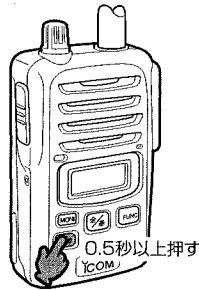
ロック機能(※P14)の動作中に表示します。

1 電源を入れる

[電源]スイッチを長く(0.5秒以上)押します。

- ピープ音が「ピーッ」と鳴って、表示部のバックライトが約5秒間点灯します。

再度、[電源]スイッチを長く押すと電源が切れます。



4

《個別呼び出し機能が設定されているときは》

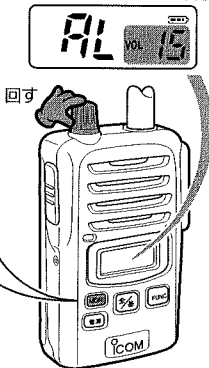
本製品の電源を入れると、約1秒間、自局番号(※P26)を表示します。



[自局番号]表示(例：01)

2 音量を調整する

受信中に、[ツマミ]を回して、聞きやすい音量に調整します。



待ち受け中に音量調整するときには、[MONI]スイッチを押します。
●状態表示ランプが緑色に点灯して、「ザー」という雑音が出ます。
※再度、[MONI]スイッチを押すと、雑音は切れます。

16

3 相手局の選びかた

(1) 通話チャンネル番号を選ぶ

■ MCA通話が設定されている場合
[通話チャンネル]番号の設定は必要ありません。

MCA通話は、電波法で小エリア無線通信に許可されている周波数(18波)の中から、自動で探し出した空き周波数を使用して通話する機能です。



MCA通話の表示

■ MCA通話が設定されていない場合

① [FUNC]スイッチを短く押します。

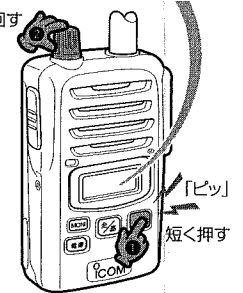
- [通話チャンネル]番号表示に切り替わります。



[通話チャンネル番号]表示

② [ツマミ]を回して、交信する相手と同じ番号にします。

- ※交信相手と番号が同じでも、あらかじめその番号にメモリーされた設定内容が異なる場合は、交信できません。そのような場合は、相手と同じ内容がメモリーされた[通話チャンネル]番号を選択してください。



【ご参考に】

表示を切り替えてから、何もしない状態が5秒以上つづく、元の表示に戻ります。

17

3 相手局の選びかた(つづき)

(2) 個別(相手局)番号を選ぶ

個別番号とは、個別呼び出し機能が設定された本製品どうして交信するとき、交信相手を指定して呼び出すための番号です。

個別番号の選びかたで、次の4通りの呼び出しができます。

※表示例は、MCA通話が設定されている場合です。

全体呼び出し(AL) → → → → → → → →
一斉に全局を呼び出す。



基地呼び出し(出荷時の設定：99) → → → → → → → →
「00」～「99」のうち基地局に指定された1局を呼び出す。



個別呼び出し(出荷時の設定：01～10) → → → → → → → →
「00」～「99」のうち選択された1局を呼び出す。



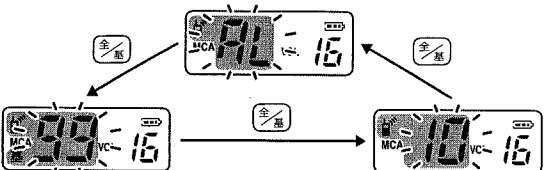
グループ呼び出し → → → → → → → →
「-1」～「-9」から選択した自局グループ番号と同じ局を一斉に呼び出す。
※出荷時は、設定されていません。



4

■ 全体/基地/個別表示への切り替えかた

[全/基]スイッチを押すと、個別番号が点滅します。短く押すごとに、図のように切り替わります。



3 相手局の選びかた

(2) 個別(相手局)番号を選ぶ(つづき)

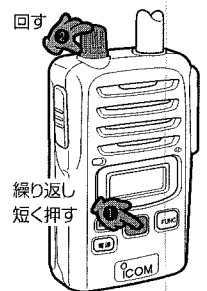
■ 個別/グループ呼び出しの選びかた

① [全/基]スイッチを短く繰り返して押し、個別または基地局番号表示にします。

- 表示する番号を点滅します。

② [ツマミ]を回して、個別またはグループ番号を選択します。

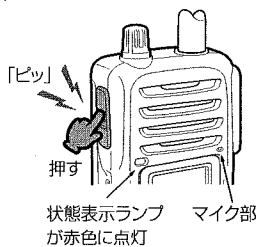
- ※5秒以上何も操作しない状態がつづく、点灯表示に戻ります。



4 呼び出しをする

■ 全体(AL)または基地局を呼び出すとき

MCA通話やアンサーバック機能が設定されていない無線機で全体(AL)または基地局、グループで呼び出すときの方法です。



[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって『こちらは××局です。〇〇さんどうぞ。』と呼びかけたら、[PTT]スイッチをはなします。

4

■ 個別呼び出しをするとき

MCA通話や個別呼び出し機能が設定されている無線機で指定の相手局を呼び出すときの方法です。

① [PTT]スイッチを短く押しはなします。

●状態表示ランプが赤色に点灯します。

② アンサーバック機能が設定されていると、相手局が通話圏内であれば、「ピピッ」と1回だけ鳴って、状態表示ランプが1回だけ緑色に点滅します。

③ 相手から応答がない場合は、①～②の操作を繰り返すか、[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって、『こちらは××局です。〇〇さんどうぞ。』と呼びかけてから、[PTT]スイッチをはなします。



5 呼び出しを受ける

■ 個別呼び出し機能が設定されていない無線機

[PTT]スイッチをはなした状態にして、相手局の電波を受信すると、状態表示ランプが緑色に点灯して、相手の音声が聞こえてきます。

■ 個別呼び出し機能が設定されている無線機

待ち受け中の状態 → 相手局番号を表示



相手局から個別呼び出しを受けると、相手局の個別番号を表示部に表示します。

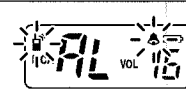
※アンサーバック機能を設定している場合は、「ピッ」と1回だけ鳴って、状態表示ランプが1回だけ赤色に点滅します。

※状態表示ランプが緑色に点灯しても、相手の音声が聞こえてこないときは、他局への呼び出しを意味します。

[MONI]スイッチを押すと、他局の交信を聞けます。



相手局から「全体(AL)」または「グループ(例:-1)」呼び出しを受けると、右図の表示だけでお知らせします。
※状態表示ランプやポケットビープ(※P27)によるお知らせはしません。




6 交信する

① 呼び出しを受けた状態で、[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって『こちらは〇〇局です。××さんどうぞ。』と応答します。

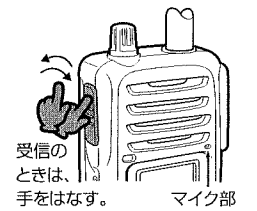
② 交信はするときは、送信と受信を交互に行ってください。

●双方同時に送信しても、交信できません。

●送信の終わりに「どうぞ」をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。

●個別呼び出しで交信中は、「」表示が点滅しています。終話して点灯表示に戻ったときは、[PTT]スイッチを押すと、再度相手局を呼び出しできます。

※MCA通話で交信している場合は、「ブッ」と鳴って終話します。(※P24:終話について)



4

■ 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。要件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】	【応答をするとき】
「相手局の呼び出し名称」: 3回以下	3回以下
「こちらは」: 1回	1回
「自局の呼び出し名称」: 3回以下	1回
「どうぞ」: 1回	1回

6 交信する(つづき)

■ 交信時のアドバイス

1. マイクロホンの使いかた

マイクロホンに向かって話すときは、口元から5cmほどはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクロホンを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、明瞭度が悪くなる場合がありますのでご注意ください。

2. 個別呼び出しについて

無線機が次の状態のときは、個別呼び出しできません。

[通話チャンネル]表示を相手局と同じにしていない。

[個別番号]表示を相手局番号と同じにしていない。

※MCA通話が設定されている場合、[個別番号]だけ設定します。

3. グループ呼び出しについて

グループ呼び出しが設定されている場合、グループ呼び出しが設定されていない無線機(IC-UH401)との交信は、グループ呼び出しを受けたときの表示に互換性がありません。

4. 相手局から応答がないときは

相手の無線機が電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、呼び出す前の表示に戻ってから、再度[PTT]スイッチを押すと、何回でも呼び出しできます。

5. チャンネルスキャン機能について

セットモードでこの機能を設定(※P29)すると、[全/基]スイッチを長く押しすごとに、スキャン機能を「ON/OFF」できます。

※電源の「ON/OFF」では、スキャンを解除できません。

◎スキャン中は、「ch」表示が点滅します。

[FUNC]スイッチを押すと、[通話チャンネル]番号がスキャンする状態を確認でき、「ツマミ」を回す方向によってアップスキャンとダウンスキャンを切り替えることができます。

◎個別呼び出しで着信したときや、[PTT]スイッチを押したときは、スキャンを解除します。

■ 交信時のアドバイス(つづき)

6. 相手局の声が聞こえにくいときは

相手の声が途切れたり弱くなったりして、聞こえにくいときは、[MONI]スイッチを押してください。

スケルチが強制的に開くため、音が途切れなくなります。

ただし、通信の状況により効果がない場合があります。

※スケルチを強制的に開いているときは、待ち受けのときも状態表示ランプを緑色に点灯して、「ザー」というノイズが出ます。

7. 交信する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して交信してください。


また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作することがありますので、はなれてご使用ください。

8. 終話について(個別呼び出し機能設定時)

通話状態になると、「」表示が点滅します。

点滅中は、表示している[個別番号]で交信できます。

通話開始から10秒以上経過して、3秒以上通話が途切れたときは、自動的に通話状態を解除(終話)します。

このとき、「」表示が点灯に切り替わります。

通話開始から10秒間以内で、通話が途切れたときは、通話開始を起点に約10秒後、自動的に終話します。

9. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が交信するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、運用周波数の組み合わせを適切に設定することで防ぐことができます。

詳しくは、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

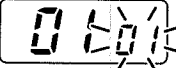
4

セットモードでは、お好みの運用状況に応じて、次の10項目を設定できます。

- ① 自局番号(※P26)
- ② 着信状態(※P26)
- ③ ポケットビープ(※P27)
- ④ モニター機能(※P27)
- ⑤ ブザー音量(※P28)
- ⑥ LCDバックライト(※P28)
- ⑦ スケルチレベル(※P28)
- ⑧ 送信出力の切り替え(※P29)
- ⑨ 基地局番号(※P29)
- ⑩ チャンネルスキャン機能(※P29)

■ [セットモード]に変更するには

- ① [電源]スイッチを押して本製品の電源を切ります。
- ② [FUNC]スイッチを押しながら、ビープ音が「ピッ」と鳴るまで[電源]スイッチを押します。
- ③ 押している[FUNC]スイッチから指を離して、[FUNC]スイッチを短く押しなおします。
 - ビープ音が「ピビッ」と鳴って、右の表示になります。
- ④ 項目の選択は、[全/基]スイッチを短く押すごとに、「01 01」→「02 P1」→「03 oF」→「04 03」→「05 A」→「06 on」→「07 12」→「08 -」→「09 99」→「10 oF」の順に切り替わります。
- ⑤ 設定内容の変更は、[ツマミ]を回します。
- ⑥ 設定が終わったら、[電源]スイッチを押して電源を切ります。
 - 設定内容を反映して、[セットモード]を解除します。
 - ※ [セットモード]が解除されるまで、送信や受信ができませんので、設定後は電源を入れなおして運用できることを確認してください。



24

25

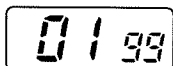
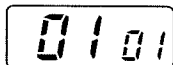
セットモードについて 5

■ 設定項目①～⑩について

① 自局番号の設定(出荷時の設定：01)

ここで設定する番号で個別呼び出しを受けると着信します。

● 選択範囲：00～99

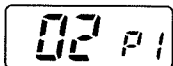


② 着信状態の設定(他局受信可：P1)

他局間の通話の傍受をON/OFFしたり、呼び出しを受けたことを知らせるPベルの設定パターンを設定します。

● P1 [他局受信可]：

他局間の呼び出しや通話を受信する



● P2 [他局不可(オープン)]：

個別呼び出し機能を使用している他局間の、呼び出しや通話は受信しない



● P3 [他局不可(クローズ)]：

自局の交信相手以外の信号は、すべて受信しない

※ただし、他局不可オープン、クローズにおいて、自局が通話中のときは、どのような信号でも受信します。

● P4 [Pベル*/ブザーON]：

Pベル機能をONとし、呼び出しを受けたことを、ブザーと▲表示の点滅で知らせる

● P5 [Pベル*/ブザーOFF]：

Pベル機能をONとし、呼び出しを受けたことを、▲表示の点滅だけで知らせる

また、ポケットビープが設定されても鳴りません。

★Pベル設定時は、相手の呼び出しに应答、または相手呼び出すまで、受信するすべての音声は聞こえません。

5

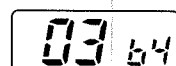
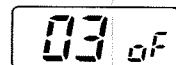
5 セットモードについて

■ 設定項目①～⑩について(つづき)

③ ポケットビープの設定(出荷時の設定：oF)

ポケットビープ(着信時の呼び出し音)のパターンを設定します。

- oF [鳴らない]：ポケットビープを出力しない
- b1 [30回]：30回(30秒間)鳴らす
- b2 [3回]：3回鳴らす
- b3 [3回+1分毎]：3回鳴らした後、1分ごとに1回鳴らす
- b4 [3回+1/2連続]：3回鳴らした後、3秒ごとに1回鳴らす

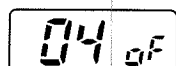
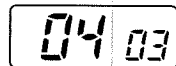


※ポケットビープが動作中でも、音声スケルチは開きます。
※ポケットビープを設定していても、「全体」および「グループ」で呼び出しを受けたときは、鳴りません。

④ モニター機能の設定(出荷時の設定：03)

無線機の[MONI]スイッチを押したとき、強制的に開くことができるスケルチの種類を設定します。

- oF [動作しない]：[MONI]スイッチの操作を無効にする
- 01 [ノイズスケルチのみ]：雑音に埋もれて聞こえるわずかな音声を聞くと
- 02 [ノイズスケルチ以外]：トーン設定の異なる相手など、他局の通話を聞くと
- 03 [全てのスケルチ]：有効なすべてのスケルチを開く

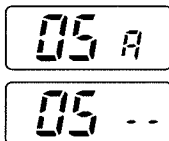


セットモードについて 5

⑤ ブザー音の設定(出荷時の設定：A)

ブザーの音量を音量調整と同期して可変するか、しないかを設定します。

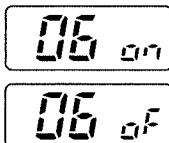
- A [音量可変]：音量調整と同期して可変する
- [音量固定]：音量調整と関係なく一定にする



⑥ LCDバックライトの設定(出荷時の設定：on)

無線機本体を操作したとき、表示部のバックライトを自動で点灯するか、しないかを設定します。

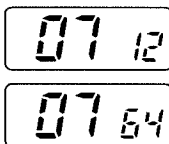
- on [自動点灯]：操作時、自動で5秒間点灯する
- oF [消灯]：操作時、点灯しない



⑦ スケルチレベルの設定

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチが動作するレベルを設定します。

- 選択範囲：00(浅い)～64(深い)
- ※[MONI]スイッチを押すと、出荷時のスケルチレベルに戻ります。



5

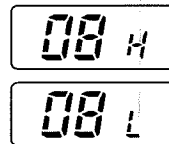
5 セットモードについて

■ 設定項目[①～⑩]について(つづき)

⑧ 送信出力の切り替え(出荷時の設定：H)

空中線電力を設定します。

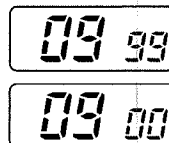
- H [全チャンネルHigh]：すべての通話チャンネルを1Wに設定する
- L [全チャンネルLow]：すべての通話チャンネルを0.2Wに設定する
- [音量固定]：通話チャンネルごとの設定にしたがう



⑨ 基地局番号の設定(出荷時の設定：99)

基地局の個別番号を設定します。基地局呼び出しに使用します。

- 選択範囲：00～99

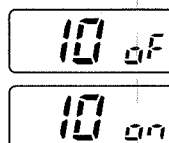


⑩ チャンネルスキャン機能の設定(出荷時の設定：oF)

チャンネルスキャンとは、本製品に設定されている[通話チャンネル]番号を自動的に切り替えて、通話しているチャンネルがあるとき、そのチャンネルを受信します。

- on：チャンネルスキャン機能を使用する
- oF：チャンネルスキャン機能を使用しない

※MCA通話が設定されている場合、この機能は、使用できません。



28

29

充電について 6

■ 安全な充電のために

△危険

- 充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- 指定(BP-220L/220N/233/246)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(P1～P10)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

△注意

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子にサビが発生して、故障の原因になります。

6

■ バッテリーパックの残量表示について

表示部の 表示は、バッテリーパックの残量に応じて変化します。

表示	バッテリーパックの状態
	十分に容量があります。
	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
	すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。
	ほとんど容量がなく、表示点滅と警告音で知らせます。

■ バッテリーパックの残量警告音について

バッテリーパックの残量表示が 表示になると、残量警告音が「ピーピーピー」と、30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したら、すぐに充電をしてください。

※ 表示の状態でご使用をつづけられますと、残量警告音が「ピーピーピー...」と5秒間鳴りつづけたあと、無線機の電源を自動的に切ります。

6 充電について

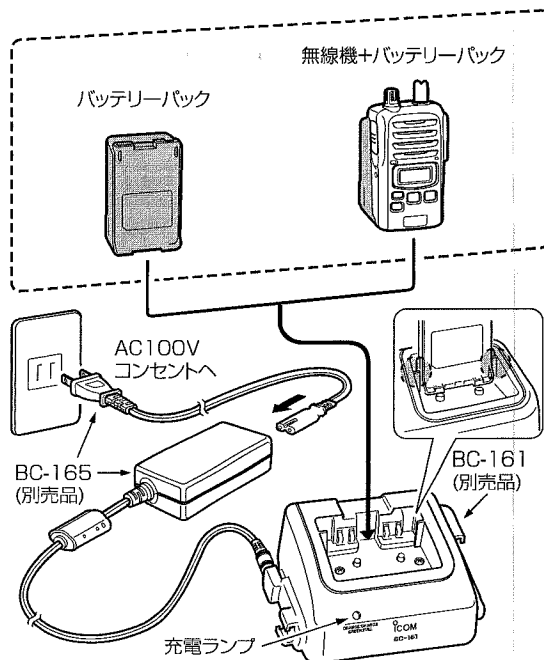
■ BC-161(卓上急速充電器)：充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤点滅する場合は、56ページをご参照ください。

※BC-161の電源には、必ずBC-165をご使用ください。



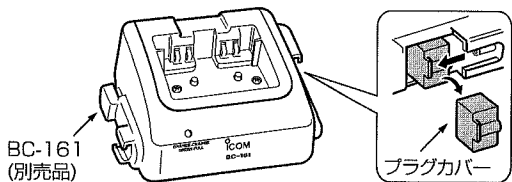
30

31

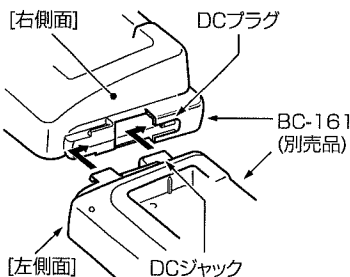
■ BC-161の連結充電について

充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

- ① 充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。



- ② 右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。
(手順③**次ページへ)



6

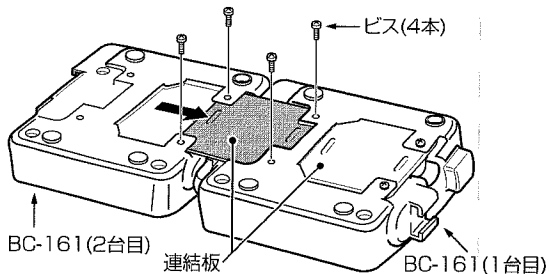
△警告

充電器は、5台以上連結して充電しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
※連結して充電できるのは、最大4台までです。

32

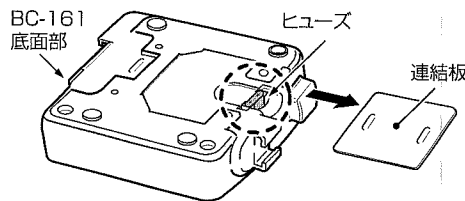
■ BC-161の連結充電について(つづき)

- ③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するビス(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器の方に移動させます。取りはずしたビス(2本)と充電器に付属のビス(2本)で連結板を固定します。



■ BC-161のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。



33

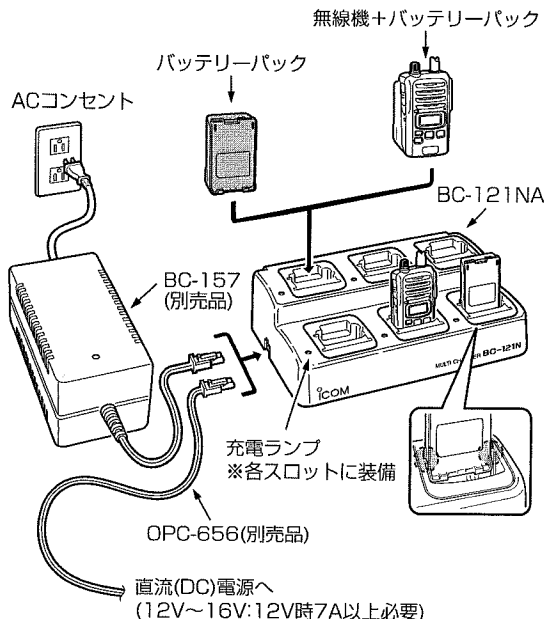
■ BC-121NA(6連急速充電器)：充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤点滅する場合は、56ページをご参照ください。

※BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。



6

■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を切らない場合、充電が完了しません。

- お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境でご使用ください。
BC-161(卓上急速充電器) : 0~40℃
BC-121NA(6連急速充電器) : 10~40℃
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりませんが、約300回です。
指定時間充電しても、数分後に表示部の残量表示が変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、ときどきお手入れしてください。

■ バッテリーパックの名称と定格について(別売品)

名称 定格項目	BP-220N	BP-220L	BP-233	BP-246
電池の種類	リチウムイオン			
電池の容量	2800mAh	1800mAh	1700mAh	
出力電圧	7.4V			7.2V
寸法 (幅×高さ×奥行)	56×91×21.9	56×91×21.3	56×91×15.2	
	<条件>突起物は、含まず/<単位> mm			
運用時間	0.2W	約31時間	約20時間	約18.5時間
	1W	約25時間	約16時間	約15.0時間
	<条件>送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用			
充電時間	約1.5時間	約3.5時間	約2.5時間	
	<条件>BC-161、BC-121NAを使用時			

※BP-220L/220N/233/246は、完全防水構造ではありません。

バッテリーパックを装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 急速充電器の定格について(別売品)

- 名称: BC-161卓上急速充電器(AD-112付属)
- 定格入力電圧: AC100V(50/60Hz) ※BC-165入力電圧
- 使用温度範囲: 0~40℃
- 保存温度範囲: -10~+70℃
- 重量: 約225g
- 寸法: 122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

※BC-121NAについては、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

6

36

■ 別売品一覧表

[★]印のものは、無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能に適合します。

バッテリー関係

- BP-220L★: リチウムイオンバッテリーパックL
- BP-220N★: リチウムイオンバッテリーパックL
- BP-233★: リチウムイオンバッテリーパックL
- BP-246★: リチウムイオンバッテリーパックM
- BP-221: アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×5本)

充電する

- BC-161: 卓上急速充電器(BC165別売)
※電源には、BC-165(別売品)が必要です。
- BC-165: ACアダプター(BC-161用の電源)
- BC-121NA: 6連急速充電器(BC-157/OPC-656別売)
※電源には、BC-157/OPC-656(別売品)が必要です。
- BC-157: ACアダプター(BC-121NA用の電源)
- OPC-656: DC電源ケーブル(BC-121NA用)

スピーカーマイク関係

- EM-80: スピーカーマイク
- HM-130★: 防水形スピーカーマイク
- HM-139: 小型スピーカーマイク
※HM-139S: HM-139のショートケーブル仕様
- HM-172★: 防水形スピーカーマイク

スピーカー関係

- EH-11: イヤーパッド型スピーカー(プラグ: 2.5φ)
- EH-12: ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ: 2.5φ)

変換アダプター

- AD-52: イヤホンジャックアダプター(ジャック: 3.5φ)

37

マイクロホン/ヘッドセット関係

- HM-104: 単一指向性タイピン型マイクロホン
- HM-104A: 無指向性タイピン型マイクロホン
- HM-109: 接話タイピン型マイクロホン
※HM-163: HM-109のコネクター部分だけが防水仕様
- HM-147: 骨伝導マイク(TEMCO製)
- HS-86: ヘルメット取り付け型ヘッドセット
- HS-88: ヘッドセット
- HS-92: ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
- OPC-636: マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
※OPC-637: OPC-636のスイッチがアンロック仕様

イヤホン関係

- EH-13: 耳掛け型イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- EH-14: オープンエア型イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- EH-15: イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- SP-16: 耳掛け型イヤホン(プラグ: 3.5φ、AD-52用)

腰にかける

- MB-98: ベルトクリップ
- MB-86: 回転式ベルトクリップ
- MB-97: ベルトクリップ(ステンレス製)

肩にかける

- MB-57L: ショルダーストラップ(LC-153/154/164/166用)
- MB-80: ショルダーストラップ
(BP-220L/220N/221/233/246用)

無線機を保護する

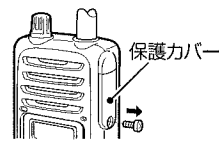
- LC-153: ハードケースS(BP-246用)
※LC-164: 装着した状態でスイッチ操作と充電が可能
- LC-154: ハードケースL(BP-220L/220N/221/233用)
※LC-166: 装着した状態でスイッチ操作と充電が可能

7

38

■ 別売品を接続するには

端子保護のため、必要がないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

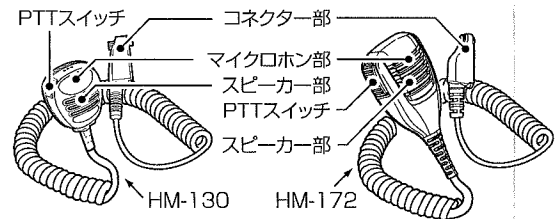


- ①市販のドライバーを用意します。
- ②無線機の側面側にある保護カバー固定用のビス(1本)をはずします。
- ③保護カバーをはずします。

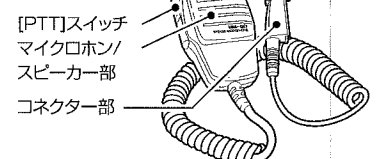
■ HM-130/HM-172*(防水形スピーカーマイク)

JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能があります。

★HM-172をご使用いただくには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

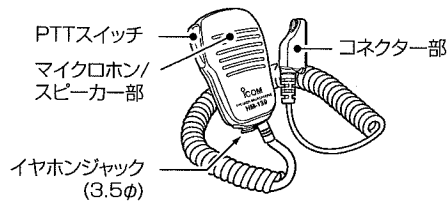


■ EM-80(スピーカーマイク)



■ HM-139/HM-139S(小型スピーカーマイク)

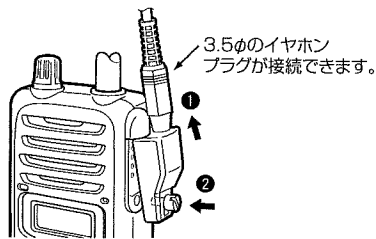
※HM-139Sのケーブルは、無線機を肩に固定して、マイクを胸ポケットに入れてご使用いただける長さです。



■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

別売品のSP-16と組み合わせてご使用になれます。また、市販品のイヤホン(プラグ: 3.5φ)と組み合わせてご使用になれます。

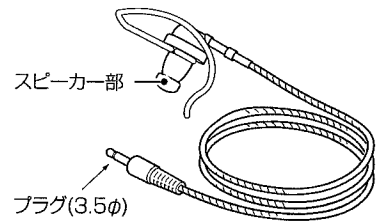
※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



7

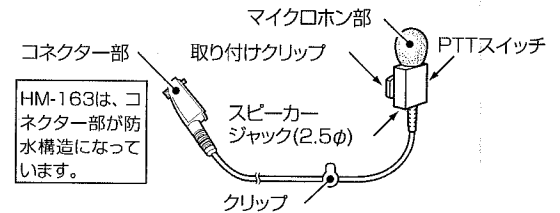
■ SP-16(耳掛け型イヤホン)

別売品のAD-52と組み合わせてご使用になれます。どちらの耳にも使用できます。



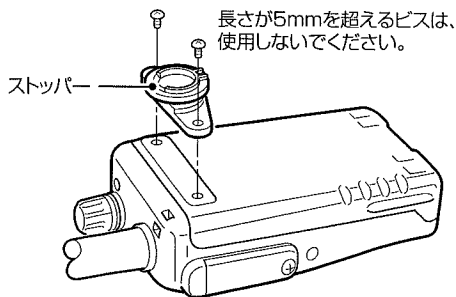
■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン)

別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

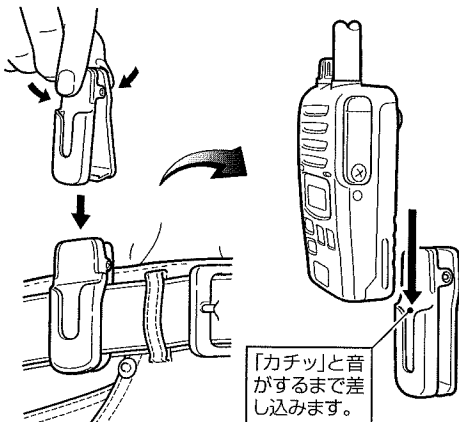


■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉



〈無線機の取り付けかた〉



7

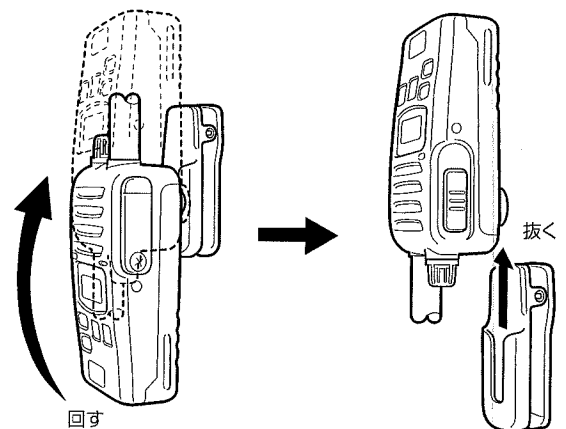
■ MB-86(回転式ベルトクリップ)つづき

〈無線機のはずしかた〉

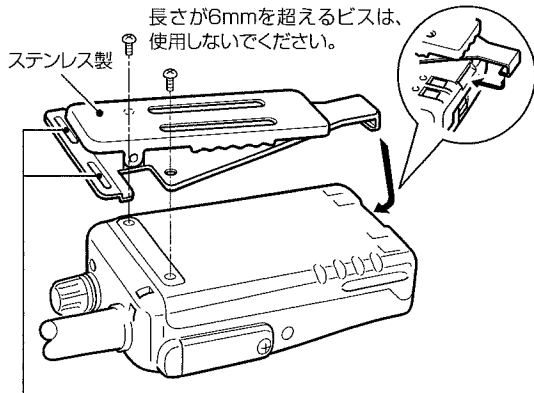
ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

△注意

ストッパーの破損にご注意ください。落としたり、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。



■ MB-97(ベルトクリップ)



MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

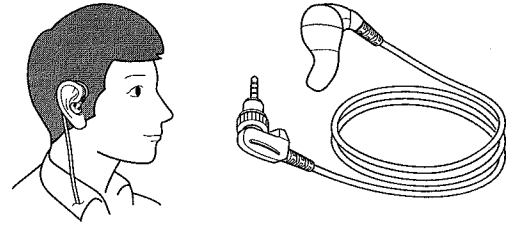
7

△注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ HM-147(骨伝導マイク)

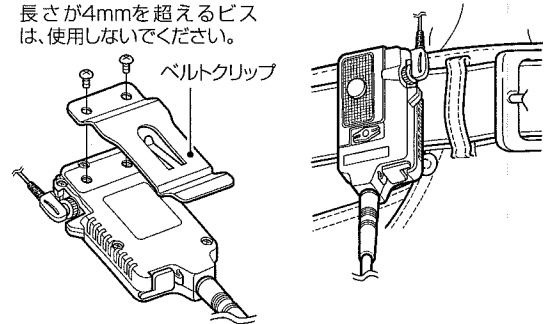
ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。使いかたは、HM-147に付属の取扱説明書をご覧ください。



[ボイスデューサー イヤーマイクレシーバー]

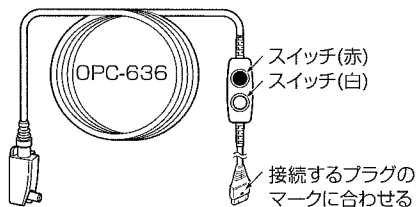
〈ベルトクリップの取り付け〉

長さが4mmを超えるビスは、使用しないでください。



[ボイスデューサー インターフェイス]

■ OPC-636/OPC-637(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル) 別売品のHS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。



〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- : 押し込んでいるあいだけ送話する
- : はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

- : 押し込む(入)と送話する
- : 出ている(出)と送話を一時中断する

〈OPC-637の場合〉

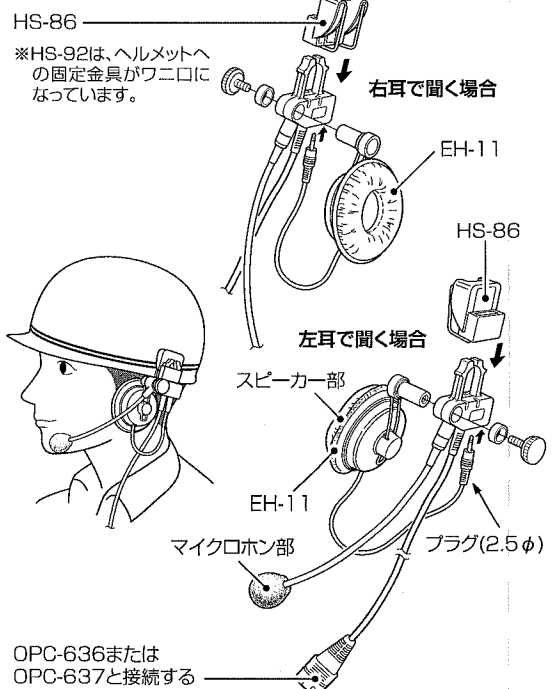
黒色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

- : 押し込んでいるあいだけ送話する
- : はなすと送話を中断する

7

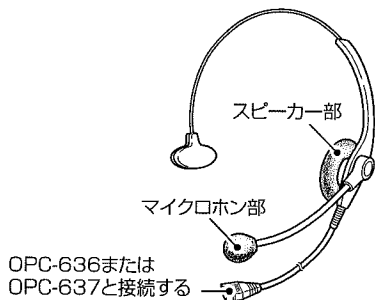
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット) とEH-11(イヤーパッド型スピーカー)の組み立て

別売品のOPC-636、OPC-637、およびEH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。



■ HS-88(ヘッドセット)

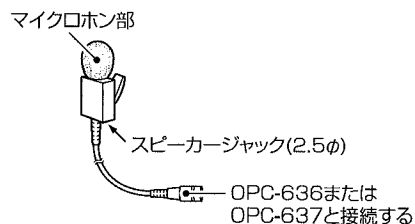
別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。



■ HM-104/HM-104A

(単一指向性/無指向性タイプ型マイクロホン)

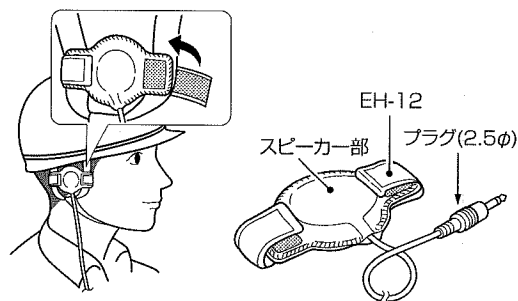
別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。
スピーカージャックには、別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。



7

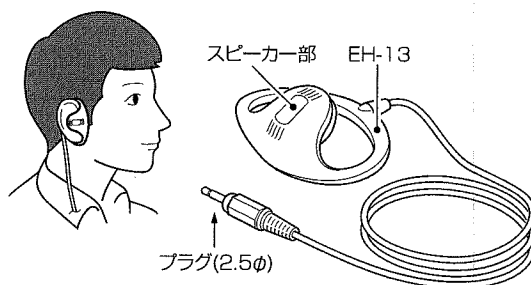
■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。



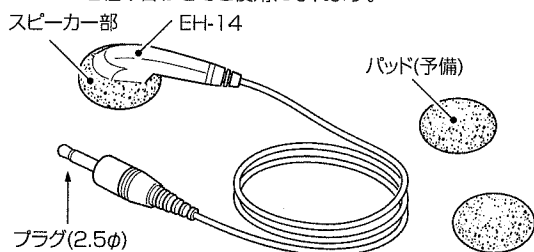
■ EH-13(耳掛け型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。
※どちらの耳にも使用できます。



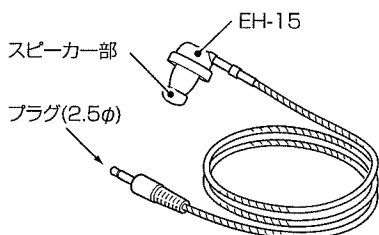
■ EH-14(オープンエア型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。



■ EH-15(イヤホン)

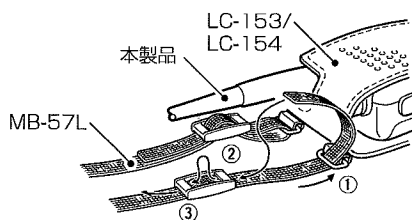
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。



7

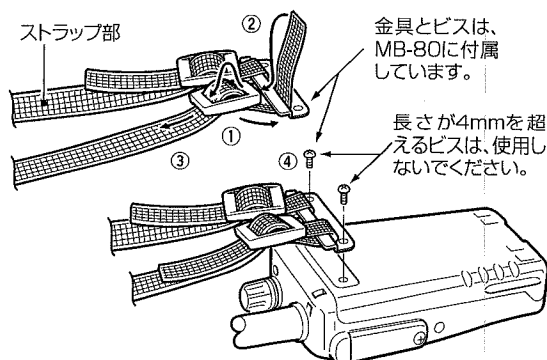
■ MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①~③)の順に取り付けます。
別売品のLC-153、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。



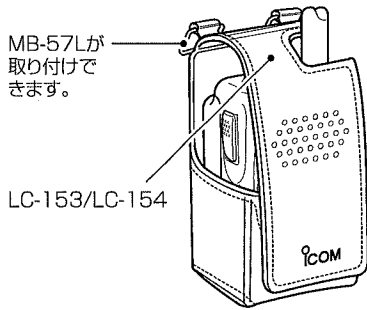
■ MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①~④)の順に取り付けます。
ストラップ部(MB-57L)は、別売品のLC-153、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。



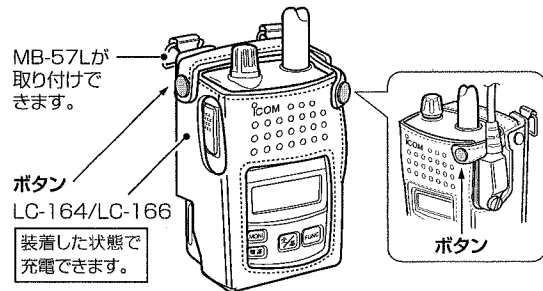
■ LC-153/LC-154(ハードケースS/ハードケースL)

別売品のBP-246にはLC-153、別売品のBP-220L/220N/221/233にはLC-154と組み合わせてご使用になれます。



■ LC-164/LC-166(ハードケースS/ハードケースL)

別売品のBP-246にはLC-164、別売品のBP-220L/220N/221/233にはLC-166と組み合わせてご使用になれます。



7

52

■ 日常の保守と点検について

- ぶだんのお手入れは、乾いたやわらかい布をご使用ください。汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。また、バッテリーパック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。
- 無線機本体、充電器(BC-161、BC-121NA)、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。
- 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパック等がしっかりと装着されているか点検してください。
- 定期的な決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- 音量が最小に調整されていないか、表示部の音量表示を確認してください。

53

■ 防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、JIS保護等級7(防浸形)を保証(ご購入より1年間)している無線機です。

この防水性能を維持するためにも、定期点検(年1回)の実施をおすすめします。

また、防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。

定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

弊社各営業所へのお問い合わせ先については、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp>)をご覧ください。

8

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現象〉[電源]スイッチを押しても電源が入らない

〈原因1〉電池をアルカリ電池ケース(BP-221)に入れるとき、極性を間違えている

処置: 極性を確認して、アルカリ電池を入れなおす

〈原因2〉バッテリーパック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、またはアルカリ電池ケースの接触不良

処置: アルカリ電池ケースの電池端子、またはバッテリーパックの充電端子を清掃する

〈原因3〉バッテリーパック、またはアルカリ電池の消耗

処置: バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は新しいアルカリ電池と交換する

〈原因4〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している

処置: 無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる

〈現象〉表示部の表示が変化しない

〈原因〉ロック機能が動作している

処置: ロック機能を解除する(※P14)

〈現象〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈原因〉音量が最小に調整されている

処置: 無線機本体の「音量」を確認する(※P16)

- 〈現象〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる
- 〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している
処置：無線機の電源を切った状態で充電する
※症状が変わらない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 〈現象〉充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない
- 〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している
処置：無線機の電源を切った状態で充電する
- 〈現象〉交信できない(応答がない)
- 〈原因1〉相手局と距離がはなれすぎている
処置：場所を移動してから交信してみる
- 〈原因2〉相手局が不在、または電源を切っている
処置：相手局の状態を確認する
- 〈原因3〉相手局と[通話チャンネル](※P17)が合っていない
処置：相手局と同じにする、さらに個別呼び出し機能でご使用の場合は、相手局の個別番号(※P18)を選択する

- 故障のときは
- 保証書について
保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
- 修理を依頼されるとき
「■故障かな?と思ったら」(※P55、P56)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。
保証期間中は
お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。
保証期間後は
お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 弊社製品のお問い合わせ先について
お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。
お問い合わせ先：アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)
◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)
受付(平日 9:00~17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp>)をご覧ください。

MEMO

高品質がテーマです。

